

令和2年度事業報告書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー

1. 事業の成果

日本国内の事業として、東京都小笠原村父島の「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」の運営管理を小笠原村より受託し、従来通りのウミガメ調査を行った。ザトウクジラ調査に関しては、尾びれによる個体識別調査を中心に他団体と協働で実施し、海洋生物の調査研究及び保全事業を遂行した。また、展示施設を利用した教育プログラムも継続して行い、小笠原小学校5年生の総合学習事業も継続した。関東沿岸のウミガメ漂着調査は、新しく取り組んだ海洋ゴミの影響調査のほか、死因解明、回遊生態の解明にも注力した。また、各教育機関での講演の他、各種イベントやシンポジウムへの出展や調査結果のサイト公表を行った。「アクションミーティング2020」を開催し、一般の人に対して情報提供や啓発を行った。ウミガメジョイントブリーディング（小学校や水族館での子ガメ短期育成および子ガメ飼育体験プログラム）を計6組織で実施した。各種イベントに参加して活動報告紹介や広報活動を行ったほか、オリジナルグッズの物品販売事業やフェアトレードを実施した。

2. 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

1 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する事業【支出額:35,102千円】

1. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】本年度はタイマイの個体数回復が見られているジャワ海活動地での保全体制の見直しと、継続的な保全状況の確立を目指して、パートナー団体職員の育成に注力した。保全体制の見直しの一環として、隣接している2島の活動地では産卵が少ないモンペラン島の活動を終了し、アオウミガメとタイマイ両種にとって重要な産卵地であるプスムット島のみでの保全体制に変更した。また、ウミガメの保全手法として発足当時から続けて来た卵の買い上げ方式を廃止し、月給の監視・モニタリングシステムへ移行した。島によって活動期間や活動海岸を限定することで、費用を抑えながらも保全目標が達成される体制に移行させた。新体制下での保全活動により、タイマイ3,220巣とアオウミガメ589巣分の卵を盗掘から保護し、推定約162,500匹のタイマイと7,300匹のアオウミガメを海に帰すことができた（2020年1月-12月、セガマ・ブサール島、プスムット島、モンペラン島、キマル島、プナンブン島にて）。また、活動地以外の個体群回復をも目指すため、他組織への保全技術指導や知見共有を実施するための交渉や活動状況調査を実施した。西パプア州のジェン・イエッサ地区のワルマメディ海岸の調査に関しては、コロナの影響により実施できなかったが、監視員指導と情報収集のためソロンのYPLI職員を海岸や村に4回派遣した。今年度のワルマメディ海岸の産卵巣数(1-12月)は115巣と過去最低であったが、ジェン・シュアツプ海岸では全体で1766巣と2005年に調査に入ってから以来最大産卵巣数であった。夏季の産卵巣数は772巣(47.3%)あり、今後、夏季産卵巣数が減少するか、モニタリング調査を継続する必要がある。ジェン・イエッサ海岸では、他団体が今年度活動を行わなかったために産卵阻害が起きず、1年を通して1頭当たりの産卵回数が減少しなかったことが推測された。

- ・ 地球環境日本基金助成（一部）
- ・ 国際資源評価等推進補助事業（一部）
- ・ Billion Baby Turtle助成事業（一部）
- ・ イオン環境財団助成（一部）

【日時】令和2年4月1日から令和3年3月31日

【場所】ジャワ海周辺（セガマ・ブサール島、プスムット島、キマル島、プナンブン島、中部ジャワ州、南スラウェシ州、バンカ・ブリトン州、西カリマンタン州、リアウ州、ジャカルタ首都特別州）、西パプア州（ジェン・イエッサ地区、ジェン・シュアツプ地区）

【従事者人員】5人

【対象】ジャワ海周辺地域の住民（50～80名）、海洋漁業省ソロン支局、タンブロウ政府、西パプア州地区住民（1,000人）

2. 小笠原諸島におけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】小笠原諸島においてアオウミガメの産卵巣モニタリング調査及び標識放流調査、ふ化後調査、人工ふ化放流、短期育成を実施した。父島市街地に隣接する大村海岸では産卵時期に合わせてパトロールを行い、帰海できなくなった産卵メスガメや入海できないふ化稚ガメの保護も行った。食用捕獲されたメスガメの体内から採取された体内卵のふ化事業を実施した。外部研究者

と共同研究を積極的に行い、卒論生3名、修論生2名の受け入れ、小笠原の事業内容が大きく向上した。

- ・ 小笠原村アオウミガメ保護増殖補助事業（一部）
- ・ 沖縄美ら海財団助成（一部）

【日時】令和2年4月1日から令和3年3月31日

【場所】小笠原諸島

【従事者人数】7人

【対象】島民（約2,700人）、一般(不特定多数)

3. 関東沿岸におけるウミガメ漂着調査事業

【内容】関東沿岸（茨城県、千葉県、神奈川県）のウミガメ漂着（ストランディング）調査および定置網におけるウミガメ混獲調査を実施した（全情報194頭中141頭調査）。ウミガメにおける海洋ゴミの影響への新しい取り組みとして、誤食ゴミの定量化や糞に含まれるマイクロプラスチックの分析を実施した（調査対象として小笠原捕殺個体含む）。また、漂着が多い茨城県神栖市での定期訪問調査にも新しく取り組み、同市における漂着原因の解明に取り組んだ。漂着・混獲情報は、既に構築されたネットワーク（行政や関係機関、漁業者、団体や個人など）からだけでなく広く一般からも収集し、関東のほか宮城県・島根県・愛知県・大阪府・和歌山県・香川県・福岡県・沖縄県からも寄せられた。ウミガメ死亡漂着場所の位置情報をマッピングサイトで公開し（<https://kamest.elna.or.jp/>）、情報発信を行った。

- ・ 地球環境基金助成（一部）

【日時】令和2年4月1日から令和3年3月31日

【場所】茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、宮城県など

【従事者人員】5人

【対象】各地団体及び個人（サーファー、カヤッカー等）、行政関係者、漁業関係者、水族館関係者、大学・研究者など約200人

4. 小笠原諸島におけるザトウクジラ調査事業

【内容】尾びれによるザトウクジラの個体識別調査を他団体と協働で実施した。また、過去のデータを用いて小笠原に来遊するザトウクジラの個体数や生存率を解明するため修論生を受け入れて、解析に取り組んだ。また、沖縄、奄美、北海道などザトウクジラが来遊する国内地域の大学・研究機関とID写真のマッチングを実施し、回遊経路や交流の実態など生態解明に取り組む、共同研究として学会で発表した。

【日時】令和2年4月1日から令和3年3月31日

【場所】東京都小笠原村父島

【従事者人員】3人

【対象】島民（約2,700人）

2. 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する人材の育成事業【支出額:1,898千円】

1. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全に関する人材育成事業

【内容】インドネシア現地カウンターパートである「インドネシアウミガメ研究センター（YPLI）」のスタッフや各保護事業実施地域の監視員に対して調査技術の指導を行った。このほか、活動地外のウミガメ個体数回復に寄与する目的で他組織が実施するウミガメ保護活動地での保全技術や知見の共有をする事業にも取り組んだ。本年は新型コロナの影響により現地訪問できない状況であったため、YPLI職員を現地派遣したりメールでの交渉や情報共有をおこなった。

- ・ 地球環境日本基金助成（一部）

【日時】令和2年4月1日から令和3年3月31日

【場所】ジャワ海全域（セガマ・ブサル島、プスムット島、キマル島、プナンブン島、中部ジャワ州、ジャカルタ首都特別州）、西パプア州（ジェン・ウォモン地区、ジェン・シュアアップ地区）

【従事者人員】3人

【対象】ジャワ海西部の地域住民（30～50名）、西パプア州のオサガメ監視員及び地域住民（20人）

2. ボランティア、インターン及び研修生の受け入れ及び指導事業

【内容】海洋生物の調査や保全に関して興味がある人々を一般から広く受け入れ、知見を広める場を提供するほか、海洋生物をテーマに研究を行う学生に対してサポートを行った。東京海洋大学のうみがめ研究会向けにオンライン講演を実施した。

【日時】令和2年4月1日から令和3年3月31日

【場所】東京都小笠原村父島、神奈川県横浜市

【従事者人員】 10人
【対象】 一般

3 海洋生物及び自然環境に関する情報提供、普及啓発の事業【支出額:13,072千円】

1. 小笠原村屏風谷施設の運営管理事業

【内容】小笠原村より運営管理を委託された「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」を利用し、海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を島民や来島者に対して行った。

- ・ 小笠原村アオウミガメ保護増殖補助事業（一部）
- ・ 小笠原海洋センター運営業務受託事業（一部）

【日時】令和2年4月1日から令和3年3月31日

【場所】東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】 7人

【対象】 島民及び来島者

2. 教育啓発・エコツアーリズム事業

【内容】小笠原小学校の生徒に対して週1回の総合学習を通しウミガメに関する教育・啓発を行うほか、島民や来島者に対して海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を行った。海洋生物保全と地域経済活性化の両立させることを目的にエコツアーリズム基盤を構築した。

【日時】令和2年4月1日から令和3年3月31日

【場所】東京都小笠原村父島

【従事者人員】 6人

【対象】 一般

3. ウミガメジョイントブリーディング（子ガメ短期育成および飼育体験学習）

【内容】前年より参加継続のヨコハマおもしろ水族館、さとえ学園小学校、学校法人シモヅノ学園（国際動物専門学校）、高齢者介護施設であるオーチャード沼津およびオーチャード開智（ランブラス・キャピタル株式会社）、すみだ水族館、マリホ水族館の計6組織にて子ガメ短期育成と飼育体験を通じた教育・啓発活動を実施した。一部の参加組織に対して、子ガメ短期育成に関連したウミガメ講演をオンラインで行った。

【日時】令和2年4月1日から令和3年3月31日

【場所】埼玉県、神奈川県、東京都、静岡県、広島県、長野県

【従事者人員】 9人

【対象】小学生1,000人、専門学校生500人、一般

4. WEBサイトによる情報発信事業

【内容】エバーラスティング・ネイチャーの活動理念や目的、インドネシアや国内での活動成果を一般に広く公開するために、ホームページにおいて情報の発信を行った。Facebookやtwitter、メールマガジンと連携して広報をおこなった。新しくwebサイト「note」での活動報告を開始した。

【日時】令和2年4月1日から令和3年3月31日

【場所】神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）、東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】 11人

【対象】 一般

5. イベント開催・講演会・学会などに関連する事業

【内容】ウミガメに関するイベント開催や環境関連の各種イベント出展のほか、講演会を主催し、活動の紹介や海洋生物の普及啓発を行った。また、各種の講演会や学会、検討会に出席・発表し、専門誌「海洋と生物」への寄稿を行った。

【日時】令和2年9月（ハチドリ電力）、11月（里海博）、12月（ウミガメと海洋ゴミ、サイエンスカフェ）、令和3年1月（アクションミーティング）、2月（バイオロギングの世界）、3月（ウミガメの生態を学ぼう・東京海洋大学うみがめ研究会ゼミ）。

「海洋と生物」への寄稿：通年

【場所】千葉県、オンライン

【従事者人員】 11人

【対象】 一般

(2) その他の事業

1 物品販売【支出額:3,280千円】

【内容】「小笠原村屏風谷施設（小笠原海洋センター）」の展示館や「ELNAショップ（エバーラスティング・ネイチャーのWEBサイトでのネット販売）」、各種イベントにおいて物品の販売を行った。広報の一助を担うELNAカレンダーを今年も販売し好評を得た。今年もアーティストにオリジナルグッズ作りの協力を得て、多彩なグッズ開発・販売をすることができた。

【日時】令和2年4月1日から令和3年3月31日

【場所】東京都小笠原村（小笠原海洋センター）、神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）、インドネシア

【従事者人員】20人

【対象】会員及び一般消費者

2 陸域における野生生物及び自然環境の調査研究に関する事業【支出額:1千円】

【内容】父島の自然河川等で捕獲された外来種の淡水ガメを小笠原の生態系から隔離することを目的とし、飼育していた個体を島外へ搬出した。

【日時】令和2年4月1日から令和3年3月31日

【場所】東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】5人

【対象】一般

3 野生生物及び自然環境の利活用による社会問題解決に資する事業【支出額:4千円】

【内容】ウミガメ飼育が及ぼすアニマルセラピー効果を実証するため、高齢者介護施設での試験開始に向け研究者や関係者と調整を行った。

【日時】令和2年4月1日から令和3年3月31日

【場所】神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）

【従事者人員】2人

【対象】一般